

ネットニュースに対する誹謗中傷コメントへの 同調・拡散を促進する要因(3)

— 自尊感情、仮想的有能感、Dark Triad からの検討 —

○佐藤加奈・中上優季菜・夏目蓮司・中本朋花・金井円花・向居暁
(県立広島大学人間文化学部)

目的

SNS 上の誹謗中傷行為の特徴として、匿名性や加害の容易性、被害の拡散性、被害回復困難性があるとされる(緒方, 2022)。この問題を考える際に、実際に誹謗中傷を行うことだけでなく、誹謗中傷に同調することもまた、被害の拡散性に関与するため、考慮すべき重要な問題となる。

本研究では誹謗中傷コメントへの同調や拡散を促進する要因となり得る以下のパーソナリティ特性について、その効果を検討する。まず、他者軽視傾向とされている仮想的有能感(速水他, 2004)を取り上げる。また、自尊感情は、その低さに起因する否定的な気分が攻撃性を促進しうること(小寺・桂田, 2020)から、誹謗中傷行為の助長に関与するだろう。最後に、Dark Triad(自己愛傾向、マキャベリアニズム、サイコパシー)もまた、攻撃行動や非行といった問題行動と関連すること(田村他, 2015)から、検討対象とした。

方法

調査協力者 大学生と社会人 158 名(男性 41 名, 女性 110 名, 不明 7 名; $M_{age}=19.74$, $SD=0.09$)を分析対象者とした。

手続き 実際の報道を基に作成したニュース記事を提示した。調査協力者を 3 群に分け各群で記事とともに 3 つの誹謗中傷コメント(記事内容に基づくコメント、記事内容に基づかないコメント、デマを含むコメント)を提示した(同調者数の操作の手続きは、夏目他(2022)を参照)。その後、コメントへの賛成意思などの態度項目、コメントへ Good・Bad を押す可能性(0~10)への回答を求めた。最後に、パーソナリティ特性を測定するために、仮想的有能感尺度(速水, 2005)、自尊感情尺度(桜井, 2000)、日本語版 Dark Triad Dirty Dozen(田村他, 2015)を使用した。

結果と考察

提示条件(コメントに付与された Good 数)を統制したうえで、本調査で用いた個人特性と誹謗中傷コメントへの賛成態度および Good を押す可能

性との関連について重回帰分析を行った。

まず、仮想的有能感($\beta=.26$)と自尊感情($\beta=.17$)が、コメント全体を平均した賛成態度に関連し($R^2=.10$)、そして、自己愛傾向($\beta=.18$)とマキャベリアニズム($\beta=.16$)が、コメント全体平均の Good を押す可能性に関連していた($R^2=.14$)。

誹謗中傷コメント別では、記事内容に基づくコメントにおいて、コメントへの賛成態度には、仮想的有能感が関連し($\beta=.22$, $R^2=.09$)、Good を押す可能性には、自己愛傾向が関連していた($\beta=.26$, $R^2=.16$)。また、記事内容に基づかないコメントにおいては、マキャベリアニズムが、コメントへの賛成態度($\beta=.20$, $R^2=.06$)と Good を押す可能性($\beta=.20$, $R^2=.06$)に共通して関連していた。さらに、デマを含むコメントにおいては、仮想的有能感($\beta=.18$)、自尊感情($\beta=.24$)、マキャベリアニズム($\beta=.21$)が、コメントへの賛成態度に関連し($R^2=.06$)、そして、マキャベリアニズム($\beta=.21$)が、Good を押す可能性に関連していた($R^2=.07$)。

まず、他者軽視傾向である仮想的有能感は賛成態度を促進する可能性が示された。また、自尊感情については、予測に反し、自尊感情の高い者ほど誹謗中傷コメントへの賛成態度を促進する可能性が示された。さらに、マキャベリアニズムは、賛成態度と同調行動を共に促進する可能性が示されたが、この特性と虚言行動の発現のしやすさの関連性(古谷, 1991)を考えると、マキャベリアニズムが高い者において、デマを含むコメントに正当性が見出された可能性があるだろう。また、記事内容に基づかない誹謗中傷コメントにおいても、高マキャベリアニズム者は、コメント自体を憶測またはデマだと認知した可能性があると考えられる。最後に、自己愛傾向は、誹謗中傷への同調行動を促進する可能性が示されたが、自己愛傾向が高い者は、嫌いな人物には不当な扱いをするなどの間接的攻撃や言葉によって他人に対する批判をするといった言語的攻撃を行いやすいこと(小塩, 2002)で説明が可能であると考えられる。